

中土佐町教育研究所

研究所だより

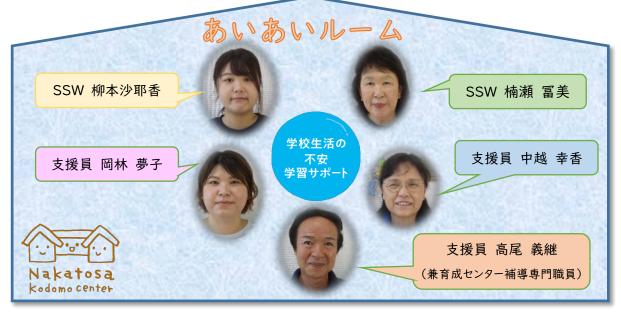
師走を迎え寒さが身に染みる季節になりました。皆様方におかれましては年末の慌ただしい時期をお過ごしのことと存じます。

11月、第2回の中土佐検定実施日に、久礼中学校で受検風景を参観させていただきました。真剣に受検している教室の横の廊下から外を見ると、保育園児が園庭で遊んでいる姿が見え、ほほえましく思ったことでした。中学校から保育所が見える環境って素敵だと思います。そして中学校の校門を出ると、長寿命化の工事がまだ途中ではありますが見違えるようにきれいになった久礼小学校の校舎が見えます。庁舎や中土佐分署とともに高台に新しい施設が並んで見える様子は防災テーマパークの取り組みが評価され受賞したこともうなずける景色です。学校でも、防災教育が熱心に行われています。

さて、昨年度調査結果から、全国で34万人の小中学生が不登校になっており、10年前より小学生は5倍、中学生は2.2倍になっているとの報道がありました。今後も増え続けると予想されています。学校に行きづらい子どもたちの受け入れ場所のひとつとして、中土佐町では「こどもセンター」の中に「適応指導教室」があります。中土佐町の適応指導教室は『あいあいルーム』という名称で、SSW(スクールソーシャルワーカー)が2名、支援員が3名います。SSWとは、教育や社会福祉の専門性を持ち、問題を抱えている児童・生徒が置かれている環境に働きかけることで、問題の解決に向けて支援をおこなう専門家のことです。また、支援員は主に学校適応や学習活動等の支援や相談業務を行います。

今年度から教育研究所も適応指導教室のメンバーと同室で業務をしており、適応指導教室の業務を支援することも増えました。また、研究所として、不登校児童生徒への支援の在り方や ICT を使った生活や学習のサポートなどを研究テーマとしています。今後、問題を抱えている児童生徒に寄り添う支援ができていくようにさらに連携を深めていきたいと考えています。

中土佐町教育研究所 所長 古谷智史



2学期 中土佐検定結果

中土佐検定は、9月に「中学校漢字」第 | 回検定、| | 月に中学校「数学」「英語」、 小学校「算数」第2回検定を実施しました。町全体の結果は次の通りです。

小学校 算数 (第2回)

学年	1年生 (17級)	2年生 (14級)	3年生 (11級)	4年生 (8級)	5年生 (5級)	6年生 (2級)	町全体
受検者数	27	27	36	30	32	25	177
平均点	98.6	96.4	95.8	83.3	88.5	89.0	91.9
合格率(%)	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

中学校 英語(第2回)

学年	1年生 (8級)	2年生 (5級)	3年生 (2級)	町全体	
受検者数	30	38	32	100	
平均点	79.2	77.9	80.3	79.1	
合格率(%)	77%	74%	78%	76%	

学校に出向き、認定証を直接手渡しさせていただきました。(写真は大野見小)

中学校 数学(第2回)

	学年	1年生 (8級)	2年生 (5級)	3年生 (2級)	町全体	
2	受検者数	30	38	33	101	
3	平均点	79	73.2	73.8	75.1	
í	合格率(%)	73%	76%	64%	71%	



中学校 漢字(第1回)

学年	1年生 (6級)	2年生 (4級)	3年生 (2級)	町全体
受検者数	31	38	34	103
平均点	76.6	72.2	83.0	77.0
合格率(%)	77%	82%	91%	83%

検定本試験の結果

再試験、再々試験を含めた合格者の割合

今回、小学校 I 年生は初めての中土佐検定でした。そして、小学校は全学年で受検 者全員が合格しました。児童のがんばりや先生方の支援に感謝します。

中土佐検定は、子どもたちの基礎学力がきちんとついているかの一つの指標です。 全国学力学習状況調査や高知県学力定着状況調査のような大規模なものではありま せんし、算数・数学でいえばすべての単元を網羅するものでもありませんが、基礎計 算をこなしていく力がついているかどうかの指標となります。

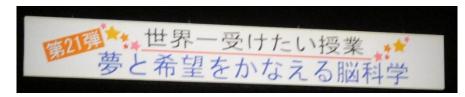
今年度から希望の学校には認定証を直接渡しに行っています。認定証を受け取る児 童生徒の笑顔に元気をいただきました。

各家庭でも中土佐検定が話題になればありがたいです。

兵庫県小野市視察から

10月30日に、兵庫県小野市で開催される体験型教育講演会「実感!脳を鍛え、夢と希望をかなえよう」に合わせて視察研修に行ってきました。小野市では東北大学教授川島隆太氏が教育行政顧問として就任しており、脳科学に基づく教育を推奨しています。中土佐検定のモデルとなった「小野検定」を実施している小野市では、その関係で中土佐町でも年1回、小中学生を対象に脳科学に関する講演会を行っています。

講演会では、川島先生が行った研究のデータ・画像を基に、脳の仕組みや役割についての講話があり、特に前頭前野の働きについての話は興味深いものがありました。体験型講演の実験では、最先端の実験器具を用いて、計算や漢字の書き取りをしている際の会場の小学5年生の前頭前野のはたらいている様子を見ることができました。脳科学にもとづいた最新のデータを活かした講演の内容を聴くことで学習活動が脳へどのように働きかけているのか、より理解を深めることができました。



自分の力でどのように育てていくか?

前頭前野は、IO歳から20歳の間に急激に成長します。学年でいうと小学校5年生からの前頭前野の発達が、将来の夢と希望をかなえるポイントとなっています。講演では、前頭前野を育てていく方法として「計算」「漢字」「音読」「辞書引き」を例に挙げ、実験画像(脳の活動によって色が変化)とともに説明がありました。「計算・漢字」では、筆算で問題を解いたり漢字を書いたりすることで、より脳をはたらかせ

るということがわかりました。「音読」では、文字を声に出して読むことでも脳ははたらきますが、早く読むことでさらに脳がはたらきました。 「辞書引き」では、言葉の意味を調べるためにタブレットで調べるより も紙の辞書を引く方がより脳をはたらかせることがわかりました。





脳は、筋肉などと同じで使わなければ衰退します。講演では、脳を使わない活動として「スマホ」「ゲーム」「YouTube」を例に挙げ、実験画像(脳の活動によって色が変化)とともに説明があり、どの活動も脳がはたらいていないことがわかりました。

脳を元気にする?

脳を元気にするには、「読書」と「早寝・早起き・朝ごはん」が大切です。講演では、読書の習慣と学力のグラフから、読書の習慣は脳を元気にし、学力向上にも関わることがわかりました。睡眠時間では、睡眠時間の長さと学力・体力のグラフから睡眠時間は学力だけではなく体力にも関連があることがわかりました。朝ごはんでは、主食(パン・ごはん)だけ食べるよりも主食に主菜・副菜を加えることでさらに学力が高くなる傾向があるそうです。

中土佐町では、脳科学に基づく取り組みのひとつとして、保小中連携教育の一環で「早寝・早起き・朝ごはん」に取り組んでいます。食育の観点からも脳を元気にし、学力・体力の向上を目指しています。

(研究教諭 渡部翔平)

輝く中土佐の子どもたち

中土佐町の子どもたちの授業の様子です。参観させていただいた授業で、子どもたちや先生が輝いている姿を 掲載することで学校と研究所との取り組みの共通理解を図っています。

☆ 9月19日(水)上ノ加江小学校校内研修

上ノ加江小学校

授業者: 武田 大知 教諭

単元名: 算数科、3年「長方形と正方形」、4年「わり算の筆算(2)」

☆10月23日(水)大野見小学校校内研修

授業者: 大崎 秀 教諭

単元名: 国語科、3年「○○のひみつを友だちに伝えよう」、4年「『和と洋新聞』を作って、全校のみんなに知らせよう」

感 想:中土佐町では、上ノ加江小と大野見小に複式学級があり、本年度の学級編成は両校とも3・4年生が複式学級となっています。複式学級の授業の指導案は、2学級分作らなければいけないので大変ですが、加えて両学年の学びをどう構築していくかを考えなければいけないのでさらに大変です。今回、両校の3・4年生複式学級の授業参観させていただく機会がありました。上ノ加江小では、「自分たちで授業を進められるような授業になっていたか」というテーマで授業後の振り返りを行います。算数科の学習を子どもたちが進めていくための研究を全校で行ってます。大野見小では複式において支援の方法が適切であったかという視点で ICT を活用しながら国語科の複式での指導方法を研究しています。大野見小と上ノ加江小は授業研究を相互に交流し合うことで、取組を共有しながら力をつけています。このように複式指導が初めての二人がしっかりと指導力をつけていくことで、中土佐町の子どもたちの学力がさらに高まっていくことにつながると期待が高まりました。(古谷)

☆ 11月8日(金)大野見中学校授業改善プラン

授業者: 田村 加恋 教諭

単元名:第2学年 外国語(英語)科「Program6 Live Life in True Harmony」 感 想:大野見中学校では先生方も生徒も ICT タブレットを使い慣れていました。 英語の文章を読み取りますが、たくさんの英語の中から分かった内容、それに対する

自分の考えは一人ひとり違っていました。文章からどんな内容を読み取ったのかを共有するために、ICT を活用して視覚的にまとめ、5人分の考えが一覧できるようになっていました。まとめたものにはコメントもつけることができるので、先生からだけでなく生徒同士で評価し合うこともできていました。先生からだけでなく友達からも学ぶことで、より学ぶことができる授業の形式は ICT を活用した授業として参考になりました。(渡部)

☆12月5日(木) 久礼小学校授業研究

授業者: 北村 拓雅 教諭

単元名: 第4学年 算数科「変わり方調べ」

久礼小学校

大野見中学校

感 想:児童を学習の主体者として、自力解決を教師が支援する授業を目指していることがわかりました。できるだけこどもの発言を生かし、つなげて、解決に導こうとしていると思いました。そのスタイルが学級全体で身についてきていると感じました。子どもたちが前の黒板で図や表に書き込み、説明している姿がたくさんあり、他の考えに付け足しや補助をする姿もありました。友達の発言をきちんと聞けていました。授業の中で子どもたちにたくさんの力(言語面など)が身についていくと思います。また、課題やまとめも子どもたちの言葉で作っていました。日頃の取り組みの積み重ねがきちんとできていると感じました。

今回授業中、クラス全体で自分の考えを自由に出し合い共有する場面がありました。子どもたちは自分の解決法を書いているノートを見せて友だちに説明していました。中には積極的に共有できていない児童もいたように感じました。今後は共有のしかたを考えていくことも大切かと感じました。久礼小学校では学習指導案に「人権教育の視点」の項目があります。大切な視点を研究授業という場で共有できることが素晴らしいと思います。(古谷)



研究所便り 令和 6 年度 第 3 号 発行 中土佐町教育研究所 〒789-1301 高知県高岡郡中土佐町久礼 6551-1

TEL 0889-52-2250 FAX 0889-52-2643 発行日 令和 6 年 12 月 20 日